

薬連ハイライト

平成30年度 薬剤師首長・地方議員 意見交換会が開催される

5月31日(木)の午後、都内のホテルにおいて「平成30年度 薬剤師首長・地方議員意見交換会」が全国より30名の首長や議員が集まり開催された。冒頭、山本会長より「役員改選があり3期目の会長を務めることとなった。来年の統一地方選挙に向けて、また、本田あきこ後援会活動に対して頑張ってもらいたい。」と挨拶があった。次に薬剤師国会議員の藤井基之参議院議員が挨拶に立ち「参議院において生活保護法34条が修正され、後発医薬品の使用は努力規定となっているのを、原則として後発医薬品とすることとされた。」と述べた。また、公務のため出席できなかった松本純衆議院議員と渡嘉敷奈緒美衆議院議員からの祝電が披露された後、日本薬剤師連盟の活動報告がなされ①平成30年度事業計画、②直

近の政治課題、③第25回参議院議員通常選挙等について説明があった。そして出席した首長・地方議員からの報告と意見が交わされ、時間一杯までそれぞれの熱い想いが語られた。その後、場所を変えて本田あきこ副会長の司会・進行で懇親会が開催され、胸のバッジに関係なく同じ薬剤師として交流が深められ、来年の再会を誓いあった。



もとゆき便り

骨太の方針2018

自由民主党組織運動本部本部長代理
参議院議員・薬剤師
藤井もとゆき

「経済財政運営と改革の基本方針2018」(いわゆる「骨太の方針2018」)は、6月15日に閣議決定されました。

政府は、経済・財政の一体改革を推し進めていますが、経済・財政再生計画策定当初の見込みに比べ、税収の伸びが想定より緩やかだったこと、消費税率10%への引き上げの延期及び消費税率引き上げ分の使途見直し等の要因により、PBの改善が遅れ、2025年度の黒字化を目指すとしています。

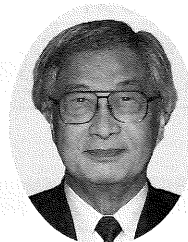
PB黒字化目標に向けては、社会保障改革を軸として、社会保障費の自然増の抑制や医療・介護のサービス供給体制の適正化・効率化、生産性向上や給付と負担の適正化への取組が不可欠としています。

具体的には、医療・介護に係わるデータの整備・分析を進め、科学的根拠に基づき施策を重点化するとともに、健康づくりに頑張った者が報われる制度とすること。レセプト情報を活用し、医師や薬剤師が投薬歴等を閲覧できる仕組みの構築等により、多剤投与の適正化を推進すること。患者本位の医薬分業を実現し、地域において薬局が効果的・効率的に

役割を果たすことができるよう、調剤報酬の在り方について検討すること。セルフメディケーション推進のため、健康サポート薬局の取組を進めること。等々が示されています。

また、薬剤の自己負担については、市販品と医療用医薬品との間の価格バランス、医薬品の適正使用の促進等を踏まえつつ、対象範囲を含め引き続き検討することも記されています。

社会保障費については、経済・財政再生計画において、2020年度に向けてその実質的な増加を高齢化による増加分に相当する伸びに抑えること等を踏まえ、2019年度以降、その方針を2021年度まで継続するとしています。これまでのように、社会保障費の伸びの目安の数値を骨太の方針に示すことはしていません。各年度の歳出については、高齢化の増加分が年によって異なることを踏まえ、一律ではなく柔軟に対応するとし、予算編成過程での調整に委ねられることとなります。



藤井議員に関するご意見・ご要望等がございましたら、全国藤井もとゆき薬剤師後援会(下記アドレス)までご連絡くださいますようお願いいたします。

zenkoku@mfuji.jp